

和の光

宝塚市立西谷中学校



進路を切り拓くために
～進路説明会でのあいさつより～

校長 筒井 啓介

保護者の皆様におかれましては、お子様の進路選択に関して、分からない点や不安に思う点もあることと思います。進路についての問題は担任を窓口とし、生徒・保護者の皆様で互いの思いを出し合って、丁寧に話し合いながら「生徒の希望する進路の実現に向けた取り組みを進める必要がある」と考えています。時には厳しいことを言わなければならない場合もあるでしょう。しかし、厳しいことを言って終わりではなく、これからどうしていくのかを共に考えて行く、その姿勢を大切にしたいと思っています。

下記に、進路実現に向けてお伝えしたいことを挙げていますので参考にしてください。

【大切にしたいこと】

- ①子どもを否定するのではなく、まずは進路に対する子どもの考えを受け止めてください。**どうすればその進路が実現できるのかを子どもとともに考えてください。**
- ②誉めて伸ばす教育が大切だと思います。否定してばかりでは、子どもの自尊感情やモチベーションアップには繋がりません。**良い点や頑張りを見つけて子どもを励ましてください。**
- ③各教科の基礎基本を確実に身に付けるために、**必ず家庭学習の習慣を身に付けさせてください。**
- ④**できなかったことができるようになる。分からなかったことが分かるようになる。この積み重ねこそが勉強です。**朝学習のプリント、定期考査で間違えた問題など、放置せずに必ず解けるようにしてください。
- ⑤中学校卒業後の進路は、高等学校進学だけではなくありません。専修学校や通信制の高等学校など**多様な学びの形態があることを知ってください。**
- ⑥**受験を希望する学校については、オープンスクールや説明会に参加し、必ずお子様の目で確認をしてください。**部活動に力を入れる学校、大学進学に力を入れる学校など学校ごとに特色があります。入学してみて、自分に合わない、こんなはずではなかった…のように、**1年生の夏休み明けに退学する生徒が多いことは事実です。**

⑦特色選抜や推薦入試で受検を考えている場合、論文や実技試験が課されます。**論文については、文章作成力が必要ですが、文章を書くためには様々な知識が必要です。**単なる暗記では対応できません。与えられたテーマについて自分なりの考えを述べる力が必要です。そのためにも、**批判的思考（critical thinking）力が必要になります。**「物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、論理的・客観的に理解する力」を養うことが大切です。

批判的思考力を養うために（例）

⇒日頃から新聞やテレビのニュースに目を向ける。**新聞記事を切り抜き、ノートに貼り付け、読んで感じたことや自分なりの考えを書く。読者の欄やコラムなど身近な内容から取り組むのが良いでしょう。**

【過去の問題例】

●A 高校

- ①実習や研究で興味があるもの。[160～200 字]
- ②卒業後の進路について。[160～200 字]
- ③日本の農業の食糧自給率を上げる方法と輸出率を上げるアイデア。[300～400 字]

●B 高校

- ①身近なヒット商品について。[80～100 字]
- ②商品開発の必要性和、就きたい職業につくために学びたいこと。[400 字]

●C 高校

- ①『ぐりとぐら』の一文から、自分だったらどのような行動をするか。
[共通/200～300 字]
- ②谷川俊太郎の『色』より、どんな情景を想像したか。また、それを作品にするならどんなものか。[デザイン科選択/300 字]

■全校一斉道徳を行いました（進路学習）

7月3日に開催する進路学習講演会「西谷中生、BOROと一緒に夢を語ろう」に向けて、事前学習を行いました。私から生徒のみんなに「夢や目標のある人は手を挙げてください」となげかけると嬉しいことにたくさんの手が上がりました。消防士・自衛官・カフェ経営・保育士・農業など、たくさんの夢とその理由を聞かせてくれました。その後、Aさん・Bくん・Cさん・吉田先生にBOROさんの自叙伝を朗読してもらい、どのようにしてBOROさんがミュージシャンになるという夢を実現したのかをみんなで考えました。さらに、大阪で生まれた女の歌詞の意味を考えようということで、私から「歌の歌詞には（ ）が込められている」という問題を出し、（ ）の中に何が入るのかをみんなで考えました。すると3人の女子生徒から「校長先生、愛です」と声があがりました。「愛」、正解だと思います。さらに答えを考えようとなげかけると、「人生・夢…」などたくさんの声があがりました。このような感じで和やかに授業が進みました。

最後に私から、「**夢やの目標が今はなくても、必ず見つけることができます。そのためにはたくさんの経験を積んでください。失敗も経験のうちです。その積み重ねが必ず夢や目標の発見・実現につながります**」と、話させてもらいました。

6月11日（校長 筒井）



自叙伝を読み、「大阪でうまれた女」の歌詞について考えました



みんなでBOROさんの自叙伝「プロペラの無い飛行機」を読みました

■西谷中生青春の一コマ

3年生にとっては、ふれ合い運動会は今年で最後となりました。先日、幼稚園・小学校の先生方とお話をする機会がありました。その場で、「校長先生、中学生とのダンスや演技とても園児が喜んでいました。園に戻ってからも●●おねえちゃん、〇〇おにいちゃんと、嬉しそうに話しています」「中学生が園児の帰宅時に、バス停の前で■ちゃん手を振りながら声掛けをしていました」と話を聞かせてくれました。また、園・小学校の先生方からは「西谷の良さは年齢を超えてみんなが仲良くできることです。この交流を大切に、さらに交流を深めていきたいです」と嬉しい声を聞かせていただきました。

また、先日ある男子中学生が、「ふれ合い運動会がとても楽しかったです。僕はもっと幼稚園・小学校・中学校で交流がしたいです…」と手紙に書いて届けてくれました。この手紙を読んでとても嬉しく思いました。教科書で教科の学習をすることは、当然必要なことですが、「行事を通して学ぶこと」「**行事を通してしか学べないこと**」があると私は思います。教科の学習は教師から学ぶことがまだ多いですが（新学習指導要領には主体的対話的な深い学びが目標に掲げられ、従来の教師主導型の授業から生徒主体の授業展開が求められており、本校でもその取り組みは進めています）、**行事では子どもたちが主体となって考え・行動する場面が多くあります。これからの社会を生き抜く子どもたちには「予測が困難な時代を生き抜く力」「自ら課題を見つけ、他者と協力しながら課題を解決する力が求められています」**このような力を養うためには**行事は大変意義のあるもの**だと考えています。

教師の働き方改革・子どもと向き合う時間の確保・教師の指導力向上・開かれた学校づくりなどたくさんの課題がありますが、**西谷の特徴である「園・小・中の連携教育」は大切にしたい。そのためにも行事の取り組みは特に大切にしたいと考えています。**教職員一丸となり、今後も「園・小・中の連携教育」を推進していきますので、どうか保護者・地域のみな様、引続きご理解・ご支援を賜りますようお願いいたします。（校長 筒井）



最高の笑顔で記念撮影（3年生全員で撮影）



私たち、青春真っ最中！！（3年生 女子全員で撮影）